

## 修士論文・課題研究レポートの提出について

2025 年 9 月期に修士論文、又は課題研究レポートを提出する予定の者は、以下の要領を熟読のうえ、執筆すること。

### 1 修士論文・課題研究レポート計画書の提出

- (1) 提出期限 2025 年 4 月 15 日（火）18 時 30 分
- (2) 提出方法【ステップ 1～3 が完了して、計画書提出済とする】

ステップ 1.

- ①【仮提出（指導教員への提出）】の URL（QR コード）から計画書の仮提出をする。  
※必ず k から始まる ID でマイクロソフトへのログインをしてください。

(<https://www.itc.kansai-u.ac.jp/services/microsoft365.html>)

- ①【仮提出（指導教員への提出）】



<https://forms.office.com/r/cCL9RHMU6j>

ステップ 2.

指導教員からの承認が下り次第、k 番のメールアドレスへ「【承認】修士論文計画書を本提出してください」という件名のメールアドレスが届く。

ステップ 3.

- ②【本提出（教務担当者への提出）】の URL（QR コード）から計画書の本提出をする。  
※最初から本提出はできませんので、必ずステップ 1・2 を経てください。  
※本提出時は論題のみの入力となります。

- ②【本提出（教務担当者への提出）】



<https://forms.office.com/r/KJTieCnV9i>

### (3) 注意事項

- ア 修士論文・課題研究レポートの概要は、日本語の場合 1400 字程度、英語の場合 700 words 程度で記述して提出すること。
- イ 提出期限までに本提出を完了すること。
- ウ 期限は厳守すること。期限後はいかなる理由があっても受理しない。
- エ 修士論文・課題研究レポート計画書には指導教員の承認を得ること。
- オ 論題は、「3 (2) 執筆言語」で指示する言語で作成すること。
- カ 計画書本提出後における、修士論文又は課題研究レポートの種別変更は、原則として認めない。
- キ 既に提出した計画の変更は、これを認めない。ただし、論文提出以前においては、指導教員の承認を得て論題に限り再提出することができる。再提出の際は仮提出から本提出を再度完了すること。
- ク 計画書を提出したが、修士論文又は課題研究レポートを提出しない場合には、  
教務センターにその旨を事前に報告し、関大 LMS のコースメニュー「修士論文等受  
付口」の中に設定されている教材「＜修士論文の提出辞退＞」より辞退申請をするこ  
と。

## 2 修士論文・課題研究レポートの提出

- (1) 提出期限 2025 年 7 月 15 日（火）18 時 30 分
- (2) 提出先 関大 LMS のコースメニュー「修士論文等受付口」
- (3) 注意事項 期限は厳守すること。期限後はいかなる理由があっても受理しない。

## 3 修士論文・課題研究レポート及び論文要旨（概要）の執筆要領

### (1) 作成部数

修士論文：論文（電子ファイル：MS Word および PDF 形式）1 部

課題研究レポート：論文（電子ファイル：MS Word および PDF 形式）1 部

修士論文提出時の確認事項について（電子ファイル）：1 部

※ 提出する PDF は、文字データが認識できる形式（OCR 処理済み）とする（MS Word から PDF に変換すれば問題ない）。

※課題研究レポートの場合は、作成した教材、プログラム及びビデオ等も 1 部（電子ファイル）提出すること。文字化けが解決できない、電子化できない、関大 LMS に提出できない場合は別途相談すること。閲覧に機器やソフトウェアが必要な教材及びプログラム等を提出する場合は、閲覧方法を明記した使用説明書を課題研究レポート末尾に添付すること。

※「修士論文提出時の確認事項について」は、関大 LMS のコースメニュー「修士論文等受付口」の中に設定されている教材「修士論文提出者 提出必須 同意書等」より回答・提出すること。

### (2) 執筆言語

執筆言語は下表のとおりとすること。

研究対象言語		英 語・ドイツ語・中国語・朝鮮語	日本語
種別			
修士論文	論題・本文	英語は研究対象言語で、その他の言語は研究対象言語あるいは日本語で執筆すること	
	要旨（概要）*	本文を研究対象言語で執筆する場合は日本語 本文を日本語で執筆する場合は研究対象言語	原則的に英語、それ以外の言語で執筆する場合には、指導教員と相談のうえ決定
課題研究レポート	論題・本文	研究対象言語又は日本語	
	要旨（概要）*	本文を研究対象言語で執筆する場合は日本語 本文を日本語で執筆する場合は研究対象言語	原則的に英語、それ以外の言語で執筆する場合には、指導教員と相談のうえ決定

\* 母語が日本語でない者は、指導教員と相談のうえ決定すること。

\* 上記以外の研究対象言語については、書式、章・節、等を含めて指導教員と相談のうえ、執筆すること。

### (3) 枚数・字数

修士論文又は課題研究レポートの本文は枚数及び字数を指定しない。

論文要旨（概要）については、日本語で執筆する場合は 2,500 字程度とし、英語・ドイツ

語・フランス語・スペイン語の場合は 2,000 Words 程度、中国語の場合は 2,000 字程度、朝鮮語の場合は 2,500 字程度とする。

(4) 書 式

項目 \ 執筆言語	英 語・ドイツ語	中国語	日本語	朝鮮語
1 頁あたりの行数	25 行程度	30 行程度		
1 行あたりの字数	スペースを含めて 80 字 (Letters) 前後	35 字程度		
余 白	上下・左右 25 ミリ			
その他	執筆にあたっては、ワープロ等を利用すること			可能な限りワープロなどを利用すること。
フォント	Times New Roman	宋体 (SimSun, NSimSun など)	MS 明朝	Batang 又は MS 明朝
ポイント・色*	12 Point・黒			
用 紙	A4 (感熱紙不可)			
体 裁	縦・横書			

\* 添付する教材等は、必要に応じてフォント及び文字色を変更してもよい。

(5) ページ番号

ページ番号は下中央に付すこと。

本文ページ番号はアラビア数字 (1, 5, 10) とし、その他、目次や謝辞にページ番号を付す場合にはローマ数字 (I, v, x) とすること。

(6) 章・節

章は 1 より番号をふり、節は 1.1 のように枝番号をふること。章及び節には見出し (タイトル) を付加し、その部分はボールド (太字) にすること。

課題研究レポートを日本語で執筆する場合は、見出し (タイトル) 部分は日本語でもよい。

例

■研究対象言語：英語

2. Study

2.1 Hypothesis

2.2 Participants

2.3 Method

■研究対象言語：ドイツ語

2. Fremdsprachengebrauch der befragten Unternehmen

2.1 Einstellung der Betriebsleiter

2.2 Effektiver Deutschgebrauch der befragten Unternehmen

2.2.1 Kommunikationstypen

■研究対象言語：中国語・朝鮮語

2. 問題提起

2.1 A 論の場合

2.2 B 論の場合

2.3 C 論の場合

■研究対象言語：日本語

2. 化石化現象

2.1 化石化の要因

2.2 単純化と意味の理解度

(7) パラグラフ（段落）

ア パラグラフとパラグラフの間には空白行を入れないこと。

ただし、例えば 2.1 から 2.2 へ節が変わる時などは、1 行の空白行を入れること。

イ パラグラフの開始は下表のとおりとすること。

執筆言語	パラグラフ先頭のインデント
英 語	先頭 5～7 文字（Letters）をインデント
ドイツ語	インデントしないこと
中国語・朝鮮語	先頭 2 字をインデント
日本語	先頭 1 文字をインデント

(8) 章 立

章が変わる時は、必ずページ先頭から記述すること。前の章の終わりの余白部分に新しい章を続けないこと。

(9) 注

注がある場合は以下のとおりとすること。記入場所に下表のタイトルを付け、番号を付して提示すること。章末注と脚注の場合、番号は章が変わる毎に改める（1 から付け直す）こと。本文中の対応番号は上付き数字で表示すること。ただし、注の数が少ない場合には、以下の指定に従わず、本文末にまとめて提示しても構わない。

研究対象言語	タイトル	記入場所
英 語	Notes.（日本語の場合は注）	章末注
ドイツ語	Anmerkungen（日本語の場合は注）*	脚注
中国語	注	脚注あるいは章末注
朝鮮語	注	脚注・章末注・本文末注のいずれか
日本語	注	章末注

\*出典のみ示す場合は（Thomas, 2000, p. 267）のように書くこと。

(10) 図 表

章毎に通し番号を付け、タイトル（表題）も必ず表示すること。なお、番号及びタイトルの位置は、図表の上に統一すること。なお、日本語で執筆する場合には、図表のタイトルも日本語とすること。図表はカラーの使用を認める。ただし、色覚異常のある方が読む場合や、印刷・コピー時にグレースケールで閲覧される場合にも正確に情報が伝わるよう、過度に華美な配色は避け、十分なコントラストを確保すること。

例：第 2 章の場合

研究対象言語		表記例
英 語	通し番号	Table 2-1 Table 2-2 Figure 2-1 Figure 2-2
	タイトル（表題）	Table 2-1 Results of ANOVA With Effect Sizes
ドイツ語	通し番号	Tabelle 2-1 Tabelle 2-2 Abbildung 2-1 Abbildung 2-2
	タイトル（表題）	Tabelle 2-1 Meist benötigte Fremdsprachen nach Aussagen der Angestellten
中国語・朝鮮語	通し番号	表 2-1. 表 2-2. 図 2-1. 図 2-2.
	タイトル（表題）	表 2-1. 常用修辭法分類一覽
日本語	通し番号	表 2-1 表 2-2 図 2-1 図 2-2
	タイトル（表題）	表 2-1 日本人学習者の形態素の習得順序

## (11) 引用

### ■研究対象言語：英語・ドイツ語・日本語

他の研究者の文章、表現、アイデア、図表をそのまま引用する場合には、APA（最新版）に準拠し引用すること。なお、出典（著者名、刊行年、ページ）を必ず添えること。また、引用の一部に強調を付ける場合や下線を施す場合には、下表のような注記を必ず引用部分のあとに付記すること。

研究対象言語	強調部分の注記例
英語	Emphasis mine.（強調部分は筆者）
ドイツ語	Hervorhebung vom/von der Verfasser/in（強調部分は筆者）
日本語	強調部分は筆者

### ■研究対象言語：中国語・朝鮮語

他の研究者の文章、図及び表をそのまま引用する場合には、出典を必ず著者名、刊行年、ページの順に明示すること（例：寺村, 1985, p. 215）。なお、引用の一部分に強調を付ける場合や下線を施す場合には、「下線部は筆者」のような表示を必ず行うこと。

## (12) 参考文献

### ■研究対象言語：英語・ドイツ語・日本語

APA（最新版）に従うか、準拠し、添付例 1（7～8 ページ）を参照し作成すること。修士論文、又は課題研究レポート、いずれの場合も、必ず参考文献を表示すること。

### ■研究対象言語：中国語

APA（最新版）に従うか、準拠し、添付例 1（8 ページ）を参照し作成すること。修士論文、又は課題研究レポート、いずれの場合も、必ず参考文献を表示すること。

### ■研究対象言語：朝鮮語

参考文献は、注の後に付けること。添付例 1（8 ページ）の例に従うこと。修士論文、又は課題研究レポート、いずれの場合も、必ず参考文献を表示すること。

## (13) 論文内の提示順

修士論文、課題研究レポートは、次の順で提示すること。

### ■研究対象言語：英語・ドイツ語

1. 日本語で作成した内表紙
2. 論文要旨(概要)
3. 研究対象言語で作成した内表紙(修士論文の場合のみ)
4. 謝辞(ある場合のみ)
5. 目次
6. 修士論文又は課題研究レポート本体
7. 参考文献
8. 付録(ある場合のみ)

### ■研究対象言語：日本語

1. 内表紙
2. 論文要旨
3. 謝辞(ある場合のみ)
4. 目次
5. 修士論文又は課題研究レポート本体
6. 参考文献
7. 付録(ある場合のみ)

### ■研究対象言語：中国語・朝鮮語

1. 内表紙
  2. 論文要旨(概要)
  3. 目次
  4. 修士論文又は課題研究レポート本体
  5. 注
  6. 参考文献
  7. 付録(ある場合のみ)
- ※ 謝辞は、修士論文の場合は内表紙の後に、課題研究レポートの場合は、論文要旨(概要)の後に綴ること。

## (14) AI ツールの利用

ChatGPT のような大規模言語モデル、および類似の AI ツールは、本文校正、資料・文献リストの整理・確認等、他者の助力を受けても著作権者の意匠の範囲を超えないと従来からみなされてきた使用範囲内にとどめること。また、すべて自身の責任のもとに使用することを理解しておくこと。さらに、AI を使用する際、入力されたデータは収集される可能性があるため、情報漏洩の観点から個人情報や機密性の高い情報を入力しないこと。

(15) その他

本要領に明記がない事項は、APA（最新版）を参考に執筆すること。

#### 4 電子ファイルの提出について

(1) 形式及びファイル名

ア ファイル形式は PDF とし、1つのファイルにまとめること（内表紙、論文要旨、目次、論文の順）。

イ ファイル名は 学籍番号（半角）\_氏名（漢字等全角）\_氏名（全角カナ）とする。

表記例：23M8001\_関大太郎\_カンダイタロウ.pdf

(2) 提出方法

関大 LMS のコースメニュー「修士論文等受付口」の中に設定されている教材「修士論文受付口」からデータをアップロードすること。

(3) 提出する際の注意点

ア 関大 LMS アップロードできる 1 ファイルの最大容量が 20MB のため、提出予定のファイルの容量が 20MB 以上の場合は、各自で 20MB 以下の容量になるように調整して分割し、複数ファイルに分けてアップロードすること。なお、最大 5 ファイルに分割し、100MB までアップロードが可能。アップロードができない場合は USB メモリにて提出すること。

例 2 分割した場合 ファイル 1/2 p1～p20 (18MB)、ファイル 2/2 p21～p40 (12MB)  
その場合のファイル名は以下のとおりとすること。

表記例：23M1001\_関大太郎\_カンダイタロウ-1.pdf

表記例：23M1001\_関大太郎\_カンダイタロウ-2.pdf

イ PDF ファイルに変換した際に、文字化け等が生じていないか、論文内容を各自で確認すること。

(4) 提出できない場合

ア 論文を関大 LMS 上にアップロードできない場合は、USB メモリにファイルが入っているかを各自で確認し、学籍番号と氏名を記入した封筒の中に USB メモリを入れて提出すること。

イ 論文を PDF ファイルに変換できない場合や 1 つのファイルにまとめることができない場合は、論文提出時に申し出ること。この場合、大学で論文（紙媒体）をスキャンし、PDF ファイルに変換するので論文（紙媒体）を 1 部追加（計 4 部）して提出すること。

ウ 論文を PDF ファイルに変換できない事例

a プリントアウトした写真等を貼付している場合。

b 「3（4）書式」用紙規格よりも大きな図面やページがある場合。

c その他、PDF ファイルに変換した際に、文字化け等が生じ、正確に論文内容が表示されないと考えられる場合。

#### 5 修士論文・課題研究レポートの訂正

修士論文（課題研究レポートを含む）の訂正は、事実関係や体裁に関するもののみとし、口頭試問において審査委員の指示がある場合に限り認める。訂正版は、口頭試問の翌日から 1 週間以内に指導教員の承認を得たうえで、電子ファイルを関大 LMS のコースメニュー「修士論文等受付口」の中に設定されている教材「修士論文受付口」からデータをアップロード（電子ファイルで提出できない場合は紙媒体を 1 部教務センターへ提出）すること。

## 添付例 1 参考文献の表記方法

### ■研究対象言語：英語

#### References

- Abraham, R. G., & Vann, R. J. (1987). Strategies of two language learners: A case study. In A. Wenden & J. Rubin (Eds.), *Learner strategies in language learning* (pp. 85–102). Prentice-Hall International.
- Anderson, J. R. (1995). *Cognitive psychology and its implications* (4th ed.). W. H. Freeman.
- Asher, J. J., & Garcia, R. (1969). The optimal age to learn a foreign language. *The Modern Language Journal*, 53(5), 334–341. <https://doi.org/10.1111/j.1540-4781.1969.tb04603.x>  
(DOI が付与されているものは記載し、DOI がないものは URL を示す)
- Ayaduray, J., & Jacobs, G. M. (1997). Can learner strategy instruction succeed? The case of higher order questions and elaborated responses. *System*, 25(4), 561–570.  
[https://doi.org/10.1016/S0346-251X\(97\)00044-4](https://doi.org/10.1016/S0346-251X(97)00044-4)
- Bachman, L. F. (1990). *Fundamental considerations in language testing*. Oxford University Press.
- Bologna, C. (2018, June 27). *What happens to your mind and body when you feel homesick?* HuffPost. [https://www.huffpost.com/entry/what-happens-mind-body-homesick\\_n\\_5b201ebde4b09d7a3d77eeel](https://www.huffpost.com/entry/what-happens-mind-body-homesick_n_5b201ebde4b09d7a3d77eeel) (Web 記事の場合、記事掲載日付を入れる)
- Borenstein, M., Hedges, L., Higgins, J., & Rothstein, H. (2014). *Comprehensive meta-analysis* (Version 3.3.070) [Computer software]. Blosstat. <https://www.meta-analysis.com/>  
(ソフトウェアの場合)
- Duckworth, A. L., Quirk, A., Gallop, R., Hoyle, R. H., Kelly, D. R., & Matthews, M. D. (2019). Cognitive and noncognitive predictors of success. *Proceedings of the National Academy of Sciences, USA*, 116(47), 23499–23504. <https://doi.org/10.1073/pnas.1910510116>
- Hatori, H. (1977). *Eigo kyōiku no shinrigaku* [Psychology of teaching English]. Taishukan-shoten.  
(日本語の文献の場合、ローマ字表記でタイトルを書き、英文タイトルを[ ]の中に添える。英文タイトルがない場合は自分で翻訳した英文タイトルを入れる)
- Honma, N. (2001). Eigoryoku to wa [What is proficiency?]. *Eigokyoiku Kenkyū* [Studies in English Language Teaching], 23, 20–25. (日本語の雑誌記事の場合、ローマ字表記でタイトルを書き、英文タイトルを[ ]の中に添える。英文タイトルがない場合は、自分で翻訳した英文タイトルを入れる)

課題研究レポートで、日本語で執筆している場合、和書の表記方法については「研究対象言語：日本語」の例を参考にすること（文献の並びに関しては、和書・洋書あわせて著者名のアルファベット順に並べること）。

### ■研究対象言語：ドイツ語

#### Literatur

##### 著 書

- Ehnert, Rolf (1989)(Hrsg.): *Einführung in das Studium des Fachs Deutsch als Fremdsprache*. 2. Aufl. (Werkstattreihe Deutsch als Fremdsprache 1.) Frankfurt a.M.: Lang.

##### 論 文

- Buscha, Joachim (1991): „Die Beschreibung der Morphologie in Referenzgrammatiken und Lehrbüchern für Deutsch als Fremdsprache“, *Info DaF* 18,4, 368-375.

##### 日本語の場合

- Amano Masaharu, Yūki, Tadashi. und Beppu, Akirō (Hrsg.)(1998): *Doitsu no kyōiku*. Tokyo: Tōshindo. (天野正治, 結城忠, 別府昭郎 (編著) (1998) : 『ドイツの教育』 東京 : 東信堂)  
(←日本語の文献の場合、ローマ字で表記して、カッコ内に日本語で著者名、論文名、書名などを添える)

##### Web からの引用

- Canadian Multiculturalism Act. Retrieved March 15, 2001,  
from <http://canada.hust-ice.gc.ca/en/lawa/c-18.7/text.html>

※ 原則として言語は問わず著者名のアルファベット順。

## ■研究対象言語：中国語

### 参考文献

参考文献のリストは、文献の言語ごとにまとめる。それぞれの言語の表記方法は以下のとおりとする。

- (a) 日本語の文献の場合は、「研究対象言語：日本語」の日本語文献の表記方法に準拠すること。
- (b) 英語の文献の場合は、「研究対象言語：中国語」の日本語文献の表記方法に準拠すること。
- (c) 中国語の文献の場合は、次の例に従うか、準拠すること。

方经民(2003)．現代汉语空间方位参照系统认知研究，博士学位论文，上海师范大学．

国家对外汉语教学领导小组办公室编(2002)．《高等学校外国留学生汉语言专业教学大纲》．北京语言文化大学出版社．

陆俭明(2007)．汉语作为第二语言教学的本体研究和汉语本体研究，《世界汉语教学》3，94-97．

## ■研究対象言語：朝鮮語

### 参考文献

(論文類)

著者 出版年 タイトル 雑誌名 号数

(単行本類)

著者(或いは編者) 出版年 書名 出版社

## ■研究対象言語：日本語

(※日本語の文献は著者名の 50 音順に並べる。日本語以外の言語の文献は言語ごとにまとめて著者名のアルファベット順に並べる。その際の書式はそれぞれの言語の要領に従うこと)

### 資料

国立国語研究所(2017)「日本語学習者による，日本語・母語対照データベース・作文対訳データベース」<<https://db3.ninjal.ac.jp/contr-db/>> (2019 年 9 月 20 日閲覧)

日本花子・東京次郎・大阪美子(編)(2006)『上級者のための日本語(2)―読解編―』日本語教育書房

(※調査に使用したコーパスや教科書類などは、参考文献に含めてもよいし、上記のように資料としてまとめてもよい)

### 参考文献

小柳かおる(2002)「Focus on Form と日本語習得研究」『第二言語としての日本語の習得研究』第 5 号，62-96.

迫田久美子・松見法男(2005)「日本語指導におけるシャドーイングの基礎的研究(2)―音読練習との比較調査からわかること―」『2005 年度日本語教育学会秋季大会予稿集』，241-242.

杉戸清樹(1987)「発話のうけつぎ」『国立国語研究所報告 92 談話行動の諸相 座談資料の分析』，69-106.

寺村秀夫(1991)『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』くろしお出版

文化庁「平成 30 年度国内の日本語教育の概要」

<[www.bunka.go.jp/tokei\\_hakusho\\_shuppan/tokeichosa/nihongokyoiku\\_jittai/h30/](http://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/nihongokyoiku_jittai/h30/)> (2019 年 7 月 29 日閲覧)

松見法男(2002)「第二言語の語彙を習得する」海保博之・柏崎秀子(編)『日本語教育のための心理学』第 6 章，新曜社，97-110.

レイヴ，ジーン．ウェンガー，エティエンヌ(1993)『状況に埋め込まれた学習―正統的周辺参加』佐伯胖(訳)，産業図書



## 添付例 2 表紙の様式

### ■研究対象言語：英語

#### 内表紙（日本語）の様式

Foreigner Talk Input:  
Its Nature and Influence on Second Language  
Acquisition  
(論文タイトルは Times New Roman  
18 ポイント程度が目安)

外国語教育学研究科 外国語教育学専攻  
学籍番号  
氏 名  
(MS 明朝 14 ポイント程度が目安)

※全体のバランスを考えて適宜配置すること。

#### 内表紙（英語）の様式

Foreigner Talk Input:  
Its Nature and Influence on Second Language Acquisition  
A Thesis Presented to  
The Graduate School of Foreign Language Education and  
Research,  
Kansai University  
In Partial Fulfillment of the Requirements for the Degree  
Master of Arts in  
Foreign Language Education and Research  
by  
YAMADA, Taro  
December 2, 20XX (作成日)

※フォントは Times New Roman。サイズは 14-18 ポイント程度を目安として、バランスを考えながら各自で選ぶこと。

### ■研究対象言語：ドイツ語

#### 内表紙（日本語）の様式

Landeskunde und Deutschunterricht  
ランデスクンデとドイツ語教育  
(論文タイトルは Times New Roman  
18 ポイント程度が目安)

外国語教育学研究科 外国語教育学専攻  
学籍番号  
氏 名  
(MS 明朝 14 ポイント程度が目安)

※全体のバランスを考えて適宜配置すること。

#### 内表紙（ドイツ語）の様式

Landeskunde und Deutschunterricht  
MASTERARBEIT  
zur Erlangung des Grades  
Master in Fremdsprachenlehrforschung  
(Master of Arts in Foreign Language Education and Research)  
Graduate School of Foreign Language Education and  
Research,  
Kansai University  
vorgelegt von:  
TANAKA, Hanako  
Osaka, den 10. Januar 20XX(作成日)

※フォントは Times New Roman。サイズは 14-18 ポイント程度を目安として、バランスを考えながら各自で選ぶこと。

■研究対象言語：中国語・朝鮮語

汉语语气副词的意义与功能  
——以“恐怕”为中心  
(論文タイトルは、18 ポイント程度が目安)

外国語教育学研究科・外国語教育学専攻  
学籍番号

氏 名

(MS 明朝 14 ポイント程度が目安)

※全体のバランスを考えて適宜配置すること。

■研究対象言語：日本語

日本語作文における文構造の分析  
(論文タイトルは MS 明朝 18 ポイント程度が目安)

外国語教育学研究科 外国語教育学専攻  
学籍番号

氏 名

(MS 明朝 14 ポイント程度が目安)

※全体のバランスを考えて適宜配置すること。